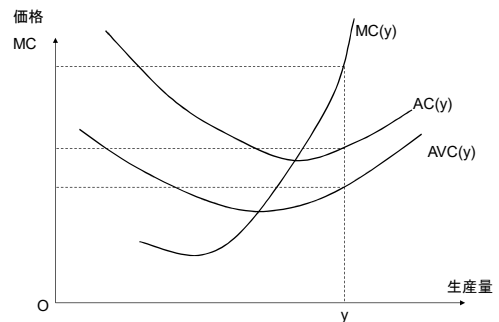


先週の問題

- 限界費用曲線(MC)、平均費用曲線(AC)、平均可変費用曲線(AVC)を書いてみましょう。
- 損益分岐点、閉鎖点を示してみましょう。
- 価格が損益分岐点よりも高い場合、企業の収入、固定費用、可変費用、利潤を図示してみましょう。

解答例



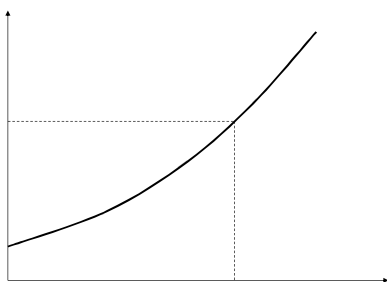
短期市場供給曲線

- 市場供給量
 - 市場供給量 = 個々の企業の供給量の和
- 市場供給曲線
 - 短期的には、企業数は一定
 - 個々の企業の供給曲線を水平方向へ加え合わせたもの

生産者余剰

- 生産者余剰(Producer's surplus):
 - 市場に参加することより得られる生産者の利益
- 利潤最大化の条件
 - 価格 = 限界費用
 - $\rightarrow$ 限界費用 = 供給してもよいと考える最低限の額
 - 市場価格 - 限界費用 = 余剰
 - 生産者余剰 = 財を供給した企業の余剰の総和

生産者余剰と供給関数



生産者余剰と利潤

- 限界費用
 - もう1単位生産するときの費用
 - 最初の1単位 $MC(0)$
 - 次の1単位 $MC(1)$
 - 可変費用 $= MC(1) + MC(2) + \dots + MC(y)$
 - $=$ 供給曲線の下側の面積
- 生産者余剰 + 可変費用 = 収入
 - 生産者余剰 = 収入 - 可変費用 = 利潤 + 固定費用

7.3 長期費用曲線

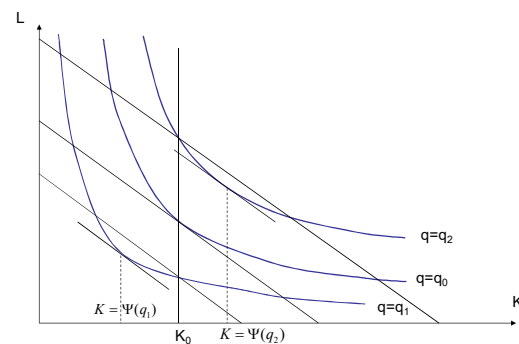
短期と長期

- ミクロ経済学における短期と長期
 - 短期: 投入量を変更できない生産要素がある
 - 長期: 全ての生産要素投入量を変更できる
- 短期費用関数
 - 固定的要素が存在
 - 固定要素の水準によって異なる
- 長期費用関数
 - 固定的要素が存在しない → 総費用＝可変費用
 - → 原点を通る

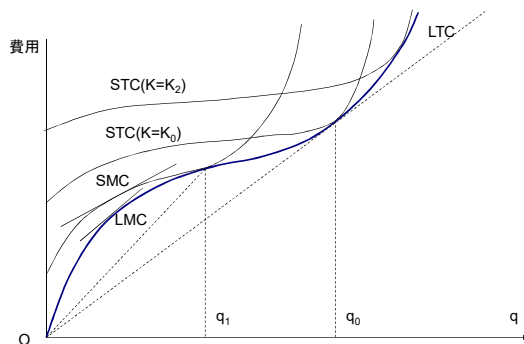
短期と長期の費用の関係

- 短期費用関数
 - 固定費用の水準で異なる
 - 固定的要素のため、最小化が不十分
- 長期費用関数
 - 固定的要素がないので、完全に最小化
 - 短期費用曲線軍の包絡線
- 短期費用と長期費用について
 - どの生産量においても 短期費用 $\geq$ 長期費用

等生産量曲線



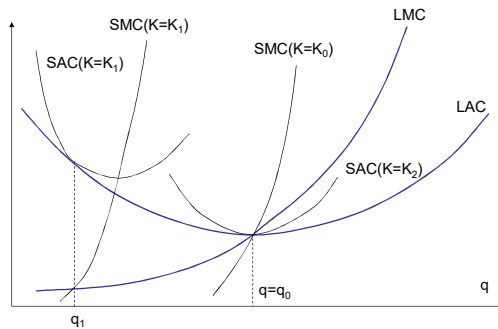
短期と長期の総費用曲線



短期と長期の平均費用

- 長期限界費用、平均費用
 - 長期の総費用関数から得られる
 - 長期平均費用の最低点＝生産の最適規模
- 短期平均費用 (SAC) と長期平均費用 (LAC)
 - LACはSAC群の包絡線
 - 最適規模において、SACの最低点＝LACの最低点
 - 最適規模以外では、SACの最低点 $\neq$ LACの最低点
 - 固定費用が適正な水準にない

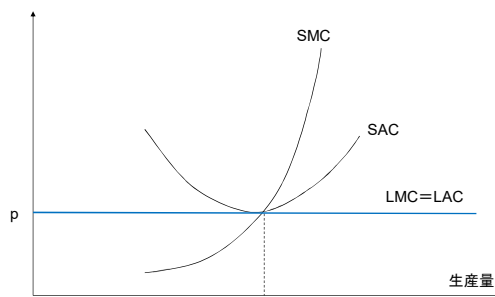
短期と長期の限界費用・平均費用



規模に関する収穫一定

- 生産関数が規模に関する収穫一定
 - 投入要素が2倍 → 生産量が2倍
 - 長期費用関数は原点を通る直線
 - → 長期限界費用 = 長期平均費用 = 一定

水平な長期平均費用



第8章 企業の長期費用曲線と市場の長期供給曲線

費用曲線が不変の場合
費用曲線がシフトする場合

長期の企業数

- 長期において
 - 固定的生産要素が存在しない
 - 参入・退出が自由
 - → 企業の総数は固定されない
- 市場の長期供給曲線
 - 短期の市場供給曲線とは異なるメカニズム

第8章 企業の長期費用曲線と産業の長期供給曲線

8.1 費用曲線が不変の場合

長期の利潤最大化

- 企業の長期総費用
 - 固定費用を含まない
 - 平均費用 = 平均可変費用
 - $\rightarrow$ 損益分岐点 = 操業停止点
- 企業の長期供給曲線
 - 長期利潤の最大化条件
 - 価格 = 長期限界費用
 - 長期限界費用曲線の長期平均費用曲線の上方にある部分

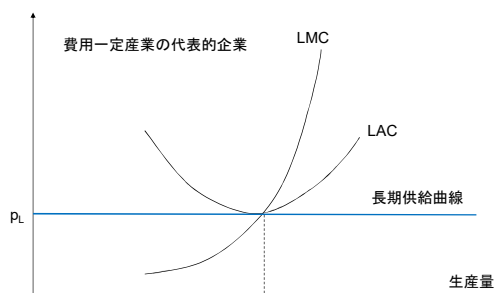
産業の長期均衡

- 企業数の調整
 - ある時点で正の利潤
 - $\rightarrow$ 新規企業の参入 $\rightarrow$ 供給量増加
 - $\rightarrow$ 価格低下
 - 価格が平均費用の最低点まで低下
- 長期市場均衡
 - 価格 = 平均費用の最低水準
 - 長期供給曲線 = LACの最低点で水平
 - 均衡において、企業数が決定

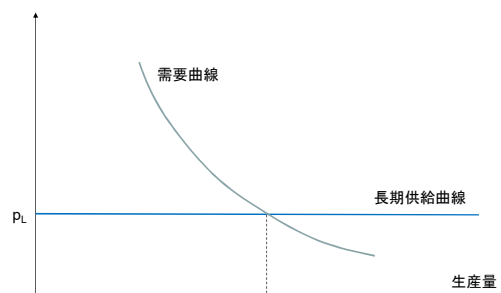
費用一定産業

- 費用一定産業
 - 新規企業の参入により、市場規模が拡大しても個々の企業の費用関数に変化しない
 - 長期供給曲線は水平

新規参入と長期供給



産業の長期均衡

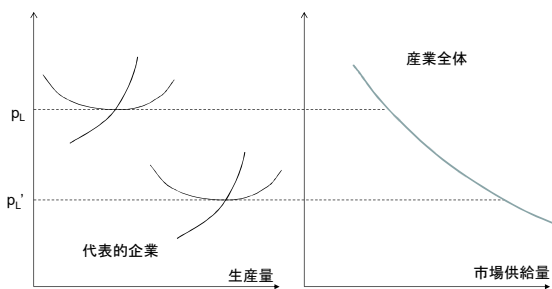


8.2 費用曲線がシフトする場合

費用逓減産業(1)

- 費用逓減産業
 - 市場規模の拡大につれて、生産費用が低下する産業
 - 長期供給曲線は右下がり
- 外部経済
 - 金銭的外部経済
 - 生産要素価格の低下による費用低下
 - 技術的外部経済
 - 生産技術の改良による費用低下

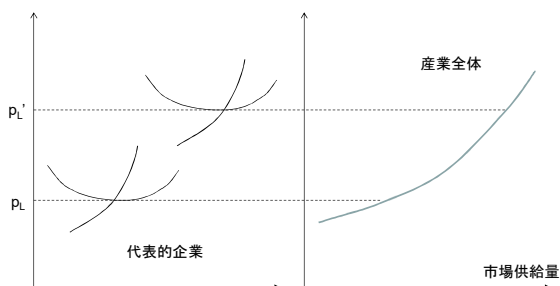
費用逓減産業(2)



費用逓増産業(1)

- 費用逓増産業
 - 市場規模の拡大につれて、生産費用が増加する産業
 - 長期供給曲線は右上がり
- 外部不経済
 - 金銭的外部不経済
 - 生産要素価格の上昇による費用増加
 - 技術的外部不経済
 - 環境対策などの生産要素価格以外の要因

費用逓増産業(2)



今日の問題